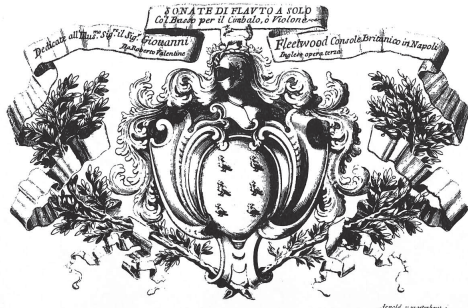
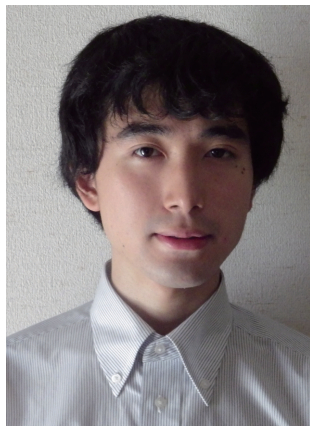


ヴァレンタインの日に

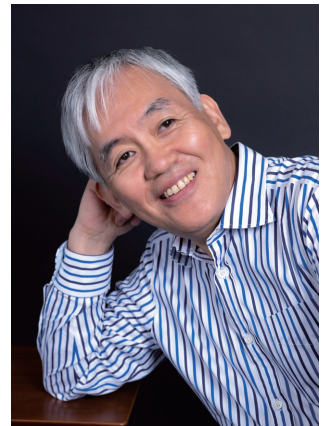
ヴァレンタインのソナタ



角谷朋紀
ヴィオローネ



中川岳
チェンバロ



本村睦幸
リコーダー

ロバート・ヴァレンタイン(1674 - 1747)
リコーダーソナタ 作品2の9 イ短調
リコーダーソナタ 作品3の12 ヘ長調
パルマ手稿譜のソナタ 第5番(作品13の3) ト短調
ジュゼッペ・ヴァレンティーニ(1681 - 1753)
パルマ手稿譜のシンフォニア 第10番 ハ長調
アルカンジェロ・コレッリ(1653 - 1713)
ウォルシュ版リコーダーソナタ 第2番(作品5の10) ト長調
ベルナルド・パスティーニ(1637 - 1710)
フォリアによるパルティータ(チェンバロソロ)

[演奏ピッチ:a'=406]



全自由席
一般:前売4,000円/当日4,500円
学生:前売2,500円/当日3,000円

2020 2月14日[金]

19:00 開演 (18:30 開場)

近江楽堂

(京王新線・初台駅直結 東京オペラシティ3階)

◆ご予約・お問い合わせ

デ・ルストホフ lusthof.concerts@gmail.com

<http://mutsuyukimotomura.com/>

松本アートオフィス 03-5353-6937

◆チケット取り扱い

東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

東京古典楽器センター 03-3952-5515

ロバート・ヴァレンティーンという作曲家をご存知ですか？ロベルト・ヴァレンティーニというイタリア名で、18世紀の初め、ローマで活躍したイギリス人です。リコーダーやヴァイオリンの曲を何十曲もローマやアムステルダム、ロンドンで出版しています。フランスのヴェルサイユで「ローマ人」と自称していたジャック・オトテールもヴァレンティーン作品を出版しているなど、国際的に人気を博していました。また、ナポリの巨匠マンチーニとともに、駐ナポリ英国外交官ジョン・フリーウッドの庇護を受け、ナポリでのリコーダーブームにも一役買っていると思われます。そのように重要な作曲家の一人でありながら、多くの作品が平易な印象を与えるためか、コンサートで取り上げられることはほとんどありません。そこで、ヴァレンティーンデーにちなみ、本村睦幸リコーダーシリーズ第13回では、ヴァレンティーン作品を中心にプログラムを組みました。同時期のローマで活躍した同姓のジュゼッペ・ヴァレンティーニの作品、これらの作品が流行するきっかけを作ったコレッリの作品、さらにその先達パスキエーニのチェンバロ作品も一緒にお聴きください。平易な曲想に溢れているからこそ、サロン音楽の楽しみにますます親しんでいただけることと思います。

通奏低音は、角谷朋紀さんにGヴィオローネというコントラバスサイズに近い6弦の楽器で参加していただき、チェンバロは活躍めざましい新鋭、中川岳さんにお願ひしました。どんなアンサンブルになるか、どうぞお楽しみに。

本村睦幸 Mutsuyuki Motomura (リコーダー)

アムステルダム・スヴェーリンク音楽院卒。W.ファン・ハウエらに師事。アムステルダムを拠点とする十余年にわたる活動を経て、2001年に帰国。リコーダー音楽が花開いたルネサンス・バロック時代の室内楽の楽しみを現代に活かすことを夢見て、愛好家の方々にとつての聴く喜び、奏でる喜びの双方を見据えた活動を展開し、2009年に続き2019年の「東京リコーダー音楽祭」でディレクターを務めるなど、様々な方向からリコーダー音楽の魅力を発信している。リコーダーに本来的な小さなサロンのあり方を探る〈小さな室内楽〉シリーズや、リコーダーの様々なレパートリーを網羅的に取り上げる〈本村睦幸リコーダーシリーズ〉を活動のベースに置きながら、各地でコンサート活動を展開しつつ、「高田馬場リコーダー練習所」を運営してアマチュア活動のサポートにも熱意を傾けている。CDは、「オランダバロックの愉悦」、「バルサンティ：リコーダーソナタ全6曲」、「無伴奏リコーダー600年の旅」、「テレマン：無伴奏フルートのための12のファンタジア全曲」に加えて、2020年春には「ナポリのリコーダーコンチェルト」のリリースを予定。ホームページは、<http://mutsuyukimotomura.com/>

角谷朋紀 Tomoki Sumiya (ヴィオローネ)

東京藝術大学器楽科卒業。コントラバスを宮澤敏夫、永島義男、西田直文各氏に師事。その後オランダ、デン・ハーグ王立音楽院にてヴィオローネをマギー・アークハルト氏に師事し大学院を修了。特にウィーン式のコントラバスについて調査・研究を重ね、イギリスの音楽雑誌「The Viol」(2010年No.18号)にその記事が掲載される。これまでにジョン・エリオット・ガーディナー、シグスヴァルト・クイケン、コンラッド・ファン・アルフェンなどの指揮者のもとイングリッシュ・バロック・ソロイスト、ラ・プティット・バンド、シンフォニア・ロッテルダムなどの数多くのオーケストラ、アンサンブルにて演奏してきた。2011年、デン・ハーグピアノ五重奏団のメンバーとしてファン・ワセナル国際アンサンブルコンクール(オランダ)第1位、同時に最優秀演奏者賞を受賞。第32回国際古楽コンクール山梨の審査委員。現在日本各地のさまざまなコンサートホール、シリーズにて演奏活動を行っている。

中川岳 Gaku Nakagawa (チェンバロ)

1993年三重県生まれ。4歳よりピアノを始める。バロック音楽と古楽器への強い関心から独学でチェンバロ、クラヴィコードを始め、2014年東京大学教養学部教養学科在学中に第27回国際古楽コンクール〈山梨〉で鍵盤楽器部門第1位(チェンバロ)を受賞。審査員のグレン・ウィルソン氏より賞賛を得て、2016年夏より10ヶ月間、ヴュルツブルク音楽大学(ドイツ)にて同教授にチェンバロを師事。ナクスよりソロCD「テレマン：6つの序曲集」をリリース。これまでに、大阪フェニックスホールでのソロリサイタル、ヴュルツブルクでのJ.S.バッハ平均律クラヴィア曲集第2巻全曲演奏会を含む、数々のソロリサイタルで好評を得たほか、通奏低音奏者としても活動している。2018年9月よりJ.S.バッハチェンバロ作品全曲演奏会シリーズを開始。演奏会情報 <https://gakurecital.wixsite.com/home>